

会 議 録

会議名	平成17年度第5回宇都宮市廃棄物減量等推進審議会	
開催日時	平成17年11月22日(火)午後2時00分から4時00分	
開催場所	宇都宮市役所議会棟 第1委員会室	
出席者	<p>【委員】 大貫隆久, 小倉一智, 工藤正志, 塚田典功, 赤塚朋子, 中尾久 佐々木英明, 廣田宏子, 結城笑子, 柿沼光子, 山田進, 手塚修 大石千絵, 齋藤武夫</p> <p>【事務局】 橋本宇都宮市環境部長, 他25名</p>	
公開・非公開	公開	
傍聴者数	なし	
議題	<p>1. 一般廃棄物処理手数料の見直しについて【答申】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内他都市の処理手数料について ・答申案について <p>2. 事業系ごみのごみステーションへの排出の見直しについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他都市の課題と対応策等について <p>3. ごみ処理基本計画の策定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中長期における減量目標及び施策について 	
会議結果	議題1	原案のとおり, 答申する。
	議題2	各委員から出された意見等をふまえ, 次回審議会において, 答申する。 なお, 答申後のスケジュールについては, 事務局案のとおりとする。
	議題3	各委員から出された意見等をふまえながら, 今後の計画策定に活かしていただく。

議題1 審議事項

一般廃棄物処理手数料の見直しについて【答申】

事務局から報告

発言要旨【議題1】

一般廃棄物処理手数料の見直しについて【答申】

手塚委員	・答申案の付帯意見に、「関係事業者等に周知を徹底」とあるが、どのようなスケジュールで行っていくのか、次回審議会までに、具体的なものを示してほしい。
工藤会長	・周知方法およびスケジュール等の具体的な内容を整理し、次回審議会までに、示してもらいたい。
工藤会長	・それでは、あらかじめ配布した原案のとおりでよろしいか。
各委員	・異議なし
工藤会長	・一般廃棄物処理手数料の見直しについて、原案のとおりとする。

議題2 審議事項

事業系ごみのごみステーションへの排出の見直しについて

事務局から説明

発言要旨【議題2】

事業系ごみのごみステーションへの排出の見直しについて

山田委員	<ul style="list-style-type: none"> 排出の見直しは、自己処理責任の徹底が重要であるが、現在は、ルールとして守られていない状況である。また、事業系ごみは、排出する側の個別の状況によって、課題等も複数あると考えるが、今後起き得る課題等を予測したものはあるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 現在は、1日平均15キログラム、一時的ならば60キログラムと少量排出を認めているが、今後は、全面的に排出禁止を行い、分別の徹底を図っていきたいと考える。
山田委員	<ul style="list-style-type: none"> 従来の少量排出基準については、あまり理解されていなかった部分もあるので、排出禁止への理解の求め方が重要であると考えます。
塚田委員	<ul style="list-style-type: none"> この問題に関しては、排出側のモラルが大きく関わってくると考える。特に、中小規模の事業者への意識づけのために、市の独自性を発揮した対策を講じてもらいたいと考える。個人としては、有効な対策案として、ごみ袋の有料制などが考えられるのだが、現時点で、対策案があれば教えてもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 市の独自案としては、現在のところ具体的なものはないが、意識づけのための指導を徹底していきたいと考えている。
齋藤委員	<ul style="list-style-type: none"> 先進都市の事例について、問い合わせ窓口を設定するなどが、よい方策ではないかと考える。参考にしてもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 本市でも、排出事業者を対象とした個別相談を実施し、よりよい排出方法についてアドバイスをするとともに、収集業者への協力も仰ぎながら、効率的な収集方法を検討していきたい。
赤塚委員	<ul style="list-style-type: none"> 事業系ごみは、業種ごとに組成が違うので、その点での工夫が必要なのではないか。特に、レストランなどから出る生ごみが問題となるが、食品リサイクル法における目標達成と関連して、どのように考えているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 民間事業者から出る生ごみについては、堆肥化を検討している。また、オフィスなどから出る紙ごみについては、分別やリサイクルの徹底を図るなど、組成分析のデータに基づき、業種ごとの特徴に応じた周知や指導を実施していきたい。
山田委員	<ul style="list-style-type: none"> 事業系ごみだけでなく、ごみ全般について先の展望も含めて、具体的な方向性を示しながら、取り組むことも重要であるとも考えるのだが、その点については、どのように考えているのか。

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・焼却ごみを減量し、リサイクルを向上させるためには、事業系ごみだけでなく家庭系ごみについても、地域で堆肥化を取り組むなどの方策を講じなければならないと考えている。今回の計画は、資源循環型社会の構築を基本としており、平成22年度までに、20パーセント以上の減量を目指したい。そのために、出される全てのごみに対して、各種の対策を講じる必要があると考える。
結城委員	<ul style="list-style-type: none"> ・事業系ごみの排出については、量の多少にかかわらず禁止していくことが重要であり、その点を排出事業者に説明し、細かいところまで、周知活動が必要であると考えている。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・事業系ごみの排出禁止への理解を得られるようなPRをし、ルールを守ってもらえるような指導を図っていききたい。
大貫委員	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業者への意識づけのため、周知の徹底がポイントとなると考えるのだが、収集業者への対策と併せて、具体的な対策は考えているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業者に対しては、ダイレクトメールによる周知の他に、個別訪問も実施したいと考えている。また、収集業者へも十分な説明を行い、理解してもらいたいと考えている。
齋藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・排出事業者について、規模や業種などにより、ランクづけや実施する順番を設定しているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・統計調査のデータに基づき、事業者数の把握をしているが、ランクづけや順番の設定などは行っていない。
齋藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・1件ずつ訪問指導するとなると、大変なのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・件数が多いので、環境部内での応援体制を確立し、1年かけて指導していききたい。
工藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・指導を効率的に行ううえで、業種ごとに、大まかな分類などはしているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・1件ずつの訪問指導となると、実際、難しいと考える。業界団体や商店街単位での指導を行い、それと併せて、個別訪問も行いたいと考えている。収集業者への協力も仰ぎながら、1年かけてシステム化を図っていききたいと考える。
大石委員	<ul style="list-style-type: none"> ・例えば、個人事業者など、業種によって出されるごみの種類も違ってきますので、どのごみが事業系ごみに該当するのかが分かるようなチラシを作成した方がよいのではないかと。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・分かりやすい周知方法を検討していききたいと考える。
大貫委員	<ul style="list-style-type: none"> ・排出事業者に対しては、社会的責任が根付くことが重要であるが、実施状況を評価していく体制も必要なのではないか。そのようなサポート体制と併せて、小規模事業者レベルまで、理解を得られるように、頑張ってもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・排出の見直しは、循環型社会構築のための重要な施策の一つなので、職員一丸となって取り組んでいきたい。
柿沼委員	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間に営業する店舗などについて、接する機会があまりないのではないかと。

	行政としては、どのような対策をたてているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 方法としては個別訪問が必要であるので、時間帯を調整しながら実施していきたいと考える。 地域の住民の方々から、情報を提供してもらい、それらを活用しながら指導していきたいと考えているので、協力をしてほしい。
齋藤委員	<ul style="list-style-type: none"> 先進都市の事例について、担当者を派遣し、解決方法などを聞いた方がよいと考える。また、目標値を設定した方が実績を出しやすいのではないかと考える。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 先進都市の事例については照会などを行っているが、担当者を派遣し、そこで聞いた様々な意見を反映させていきたいと考える。 目標値の設定については、1年間で周知を図り、一斉にスタートしていきたいと考えている。また、実施後の周知活動も引き続き実施していきたいと考えている。
赤塚委員	<ul style="list-style-type: none"> 実施後の処理方法の把握について、アンケート等を実施することで、効果が上がるのではないかと考える。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 実施後における排出事業者の把握や調査は必要であると考えているので、実態を捉えたうえで指導していきたいと考える。
赤塚委員	<ul style="list-style-type: none"> 実施後だけでなく、実施前の調査も必要なのではないかと考える。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 平成18年度の周知の際に、事業者の考えを把握できるようなアンケートも併せて実施したいと考える。
結城委員	<ul style="list-style-type: none"> アンケートによって、収集方法等に関する様々な意見を集約して、実施方法などを検討してもらいたい。
大石委員	<ul style="list-style-type: none"> アンケート内容については、意見を受けての課題整理を行いやすい形式にしたい。
工藤会長	<ul style="list-style-type: none"> それでは、今まで出た意見等をふまえたうえで、次回審議会において、答申していくということによろしいか。
各委員	<ul style="list-style-type: none"> 異議なし
工藤会長	<ul style="list-style-type: none"> 次回審議会において、答申していくこととする。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 今後のスケジュールについて、次回審議会での答申後、3月に行われる議会で条例改正し、平成18年度当初から周知期間に充てたいと考えているのだが、どうか。
工藤会長	<ul style="list-style-type: none"> 事務局から出されたスケジュール案でよろしいか。
各委員	<ul style="list-style-type: none"> 異議なし
工藤会長	<ul style="list-style-type: none"> それでは、事務局から出されたスケジュール案のとおりとする。

議題3 審議事項

ごみ処理基本計画の策定について

事務局から説明

発言要旨【議題3】

ごみ処理基本計画の策定について

中尾委員	<ul style="list-style-type: none"> ごみ量の推計について、分別などによる定量的な減量効果の他に、ライフスタイルの変化などによる定性的な減量効果も考えられるのではないかと考える。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 定量的な減量と併せて、発生抑制の観点から、生ごみの水切りやマイバグの推進などのライフスタイルに関連するような施策も実施していきたいと考える。
齋藤委員	<ul style="list-style-type: none"> 高齢化社会の進展に伴い、ごみの質や量が変化していくと考えるのだが、それらの社会的背景も加味していくことで、より現実的な予測になるのではないかと考える。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 予測については、毎年ごみ組成分析を実施し、ごみの質や量を継続的に把握した結果、計画の見直し等の参考データとして活用していきたいと考える。
大貫委員	<ul style="list-style-type: none"> 焼却ごみ量の推移について、平成19年度に大幅に減るのに、平成20年度以降はあまり減らないのはなぜか。また、人口の推移について、人口が減ることを念頭に置いたのはなぜか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 平成19年度に焼却ごみ量が減った大きな要因には、民間の生ごみ資源化施設の稼働やその他プラスチック製容器包装の分別収集などが挙げられる。また、人口については、本市の総合計画を基にしたデータを採用している。
大貫委員	<ul style="list-style-type: none"> 人口動態については、昼間人口等の社会増減も加味したものでないと、現実的なものにならないのではないかと考える。また、焼却ごみ量の推移について、数値の根拠となるものを次回審議会に示してもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 根拠については、次回審議会に示していきたい。
大貫委員	<ul style="list-style-type: none"> 生ごみ資源化施設の処理能力はどれくらいなのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 年間に約10,000トンの処理能力を見込んでいる。
大石委員	<ul style="list-style-type: none"> ごみ量の推計値について、国で取りあげられているレジ袋の有料化なども加味されているのか。また、マイバグの推進とレジ袋の有料化との減量効果の比較等も考慮されているのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> レジ袋の有料化は国で検討中ということもあり、加味していないが、家庭系においては、マイバグの推進の徹底を図るとともに、その他プラスチック製容器包装の分別収集を行い、焼却ごみの減量を図りたいと考える。
山田委員	<ul style="list-style-type: none"> 長期的な施策について、大きな方針のようなものの他に、例えば「もったいない」など、長期的展望のなかで、ごみ減量の方向性を打ち出せるようなメ

	<p>ッセージを発信し，理解を図っていった方がよいのではないか。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・計画のなかに，消費者や事業者などに分かりやすく伝わるメッセージのようなものを組み込んでいきたいと考える。
山田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・現在，「もったいない」が叫ばれているが，それに代わるような新たなメッセージを発信してもらいたい。
塚田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な市民運動やイベントなどに，ごみ問題を絡めて，啓発してもらいたいと考える。
工藤会長	<ul style="list-style-type: none"> ・では，意見も出尽くしたようなので，各委員から出された意見等をふまえながら，今後の計画策定に活かしてもらいたい。